



平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

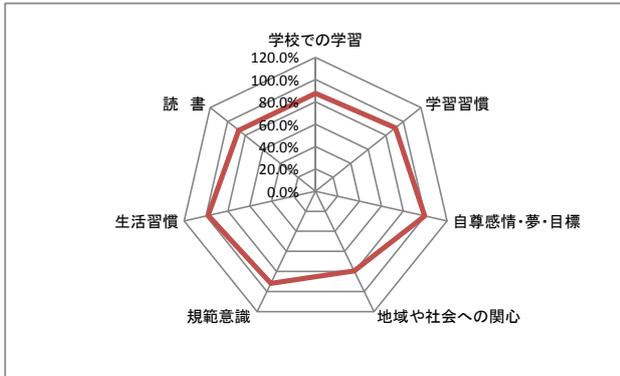
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	国語科は全国平均正答率を大きく上回っていた。傾向としては、回答が選択式の問題の正答率は、全国平均値を上回っていたが、記述式の問題になると平均値を下回っていた。特に全国平均正答率が高い問題において、本校の正答率はさらに高い傾向がみられた。	上回っている
算数	算数科は全国平均正答率を下回っているが大差はなく、ほぼ同程度だった。傾向としては、国語科と同様に、回答が選択式の問題の正答率は、全国の平均値を上回っていたが、記述式の問題になると平均値を下回っていた。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- 学習に関しては、出された課題に対してまじめに取り組むが、自分から課題を見付けたり、進んで取り組んだりすることを苦手としている児童が見られる。現在、家庭学習の中で自学を進めていっているが、より一層工夫をしていく必要がある。
- 一週間の間で、まったく読書をしないという児童が見られる。読書自体があまり好きではなく、読書の習慣が身に付いていないようである。読み聞かせや国語科の学習などの中で、よりよい本との出会いを工夫していかなければならない。
- 地域行事への参加意識が全国と比べて低かった。地域の方々への感謝の気持ちは強くもっているが、それが行事の参加へとつながっていないようだ。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 基礎的・基本的な学力向上のため、朝の学習の時間に取り組む内容を曜日ごとに決め、全校で一斉に実施する。
- 読み聞かせボランティアによる活動を継続的に実施していくとともに、委員会活動や学級活動などの中で、読書に関する取組を行い、低学年のうちから読書に親しむ習慣を身に付けていくようにする。
- 担任外教諭による少人数指導や個別指導を計画的・継続的に実施する。
- 学力定着サポートシステムの学習プリントを単元末や学期末において効果的に活用し、基礎・基本の定着を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭教育学級の講座や特設授業を保護者や児童に行い、テレビゲーム等メディアの接触について指導・啓発を行う。PTA協議会が行っている「ケータイ夜10時電源OFF運動」の周知を行い、PTAと一緒に啓発を進める。
- 学級懇談会や個人懇談会、学校便りを通して、家庭学習や読書の価値を保護者に伝え、その徹底を図る。